

2026 年 4 月 13 日作成 Ver.1.1

《情報公開文書》

IgA 腎症の血清免疫複合体解析

研究の概要

【背景】

IgA 腎症とは、慢性の糸球体疾患であり、糸球体のメサンギウム領域を中心とした IgA の沈着を認めるのが特徴です。血尿や蛋白尿などの検尿異常によって見つかることが多く、成人発症例では 20 年の経過で約 40% が透析や腎移植を必要とする末期腎不全に至るとされています。現在は臨床所見から IgA 腎症を推定する試みはあるものの、確立したバイオマーカーは存在せず、診断は身体への負担が大きい腎生検による病理検査のみで行われます。血液検査で得られる血清中の免疫複合体の形成に関わる抗原を明らかにすることができれば、身体への負担を考慮したバイオマーカーの開発が前進します。

【目的】

本研究の目的は、IgA 腎症に特徴的な抗原タンパク質を明らかにすることです。加えて、IgA 腎症に特徴的な免疫複合体の性質を明らかにします。

【意義】

本研究により、IgA 腎症の病態を反映する新しい抗原の候補や免疫複合体の特徴を明らかにできれば、患者様への負担の少ない血液検査による診断の実現や病態に基づいた治療法の開発につながる可能性があります。

【方法】

前研究(「自己免疫疾患における免疫複合体研究」長崎大学病院臨床研究倫理委員会許可番号 24101007)で得られた IgA 腎症、疾患対照群(全身性エリテマトーデス)、健康人の免疫複合体に含まれる抗原タンパク質の網羅的解析データ、免疫複合体の量、サイズに関するデータおよび診療時に得られた臨床検査データを使って、IgA 腎症にみられる抗原や免疫複合体の特徴を調べます。

対象となる患者さん

「自己免疫疾患における免疫複合体研究」(長崎大学病院臨床研究倫理委員会許可番号 24101007)の研究の対象となった IgA 腎症、全身性エリテマトーデスの患者さん、健康な方

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

性別、年齢、既往歴、薬剤歴、家族歴、症状、検査所見（血算、血液分画、血液像、凝固系、BUN、CK、Alb、GFR、Col、TG、Na、K、Cl、Ca、BS、HCO₃⁻、アンモニアなど）治療情報（治療薬）、発病年月、合併症、IgG、IgM、IgA、IgE、IgM、CRP、C3、C4、CH50、白血球、血小板、stage、Oxford 分類、H-Grade、C-Grade、抗核抗体、AMA 抗体価、Bil、TP、Plt、ALP、治療薬、尿潜血・尿蛋白量、Gd IgA

本研究で利用する試料・情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。本研究で使用する試料・情報は、個人を特定できないように匿名化されており、特定の個人を識別することはできません。そのため、この研究に使われたくないと申し出られた方を対象者から外すことができません。あらかじめご了承ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2030 年 3 月 3 1 日

研究実施体制

研究責任者	所属：長崎大学病院 薬剤部 氏名：大山 要 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095（819）7245
試料・情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長

問い合わせ先

【研究の内容、試料・情報等の利用停止の申し出について】

長崎大学病院 薬剤部 大山 要

〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号

電話：095（819）7245 FAX 095（819）7251

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200

受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）